

令和3（2021）年度

事業報告書

学校法人 郡山学院

令和3年度事業報告

令和3年度は、3年連続のコロナ禍や福島県沖地震被害による変則的な学校運営を余儀なくされました。

ケイセンビジネス公務員カレッジ(以下、ケイセンと称す)は、昨年引き続きリモート授業も併用したハイブリッド授業でした。郡山学院高等専修学校(以下、学院と称す)は、半壊した校舎から引っ越し、ゴールデンウィーク明けから仮校舎での対面授業を行いました。

それでは、本学の事業について要点のみ説明します。

教学の面ですが、まず「入り口」としてケイセンは学生募集が、3年連続の前年度割れとなっており、平成と令和を通して最低の入学生となっていました。このことを深刻に反省し、次に述べます「中身」と「出口」を含め抜本的な対策を講じます。学院は、7年連続で定員を確保できました。少子化になっても不登校生は増加傾向あるということを割り引いても、学院は健闘しました。

次に「中身」ですが、ケイセンは公務員試験や検定試験合格実績が振るいませんでした。原因を徹底的に分析し、繰り返しになりますが抜本的な対策を講じます。恒例の献血は、前年度より9名増え約140名に協力してもらいました。防災士養成講座では、2期生が47名合格し、累計で約80名近い防災士が誕生しました。なお、夏の豪雨災害の時には、郡山市との防災協定に基づき初の避難所を開設し、地域住民に役に立つことができました。本学の使命である“経世済民を実践することができました。学院は、検定合格では前年とほぼ同じ成績でした。各種の競技大会は、仮校舎ということもあり、十分な実績を出すことはできませんでした。献血は、前年度を上回り100名を超えました。

「出口」では、ケイセンの総合ビジネス学科が、9年連続の就職内定率100%を達成しました。ただし学生に人気のある企業等への就職という点では、課題を残しております。また、卒業式までに全員の進路を決定するとの課題は、今回も未達となりました。学院は、8年連続で進路決定率100%を達成しました。

経営の面では、学生・生徒の学納金収入が減少し続けております。収支的には学院校舎の解体費が公費解体により不支出ということで、形式的には黒字ですが厳しい状況です。

以上のことを踏まえ、抜本的な改革・改善を進め次年度につなげます。

以下は、令和3年度に本学が行った具体的な事業の説明となります。